

# 令和6年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告

自己評価基準： 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

令和6年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告	
今年度の教育活動への取組と重点目標	自己評価
<p><b>【学校運営】</b></p> <p>(1) 企画調整会議の決定事項の確実な周知と、分掌間の連携、年次間での情報共有等を徹底する。</p> <p>(2) 分掌業務において、教員相互のOJTにより教職員のボトム・アップを図るとともに、PDCAサイクルを活用した課題抽出・改善により、合理的かつ効率的・効果的な学校運営を行う。</p> <p>(3) 「西部学校経営支援センター特別指定校」の施策を活用し、本校のキャリア教育や進学指導に係る課題を整理し、組織的に系列改編を進める。(キャリア教育検討委員会)</p> <p>(4) 「学校2020レガシー」の豊かな国際感覚の醸成に向けて、「海外学校間交流推進校」の施策を活用した、①英語力の強化、②国際交流、③海外派遣の取組等を通して、グローバル人材の育成を図る。(グローバル教育推進委員会)</p> <p>(5) SIP拠点校(Ⅲ期)の施策を活用し、理数・情報分野に興味・関心のある生徒に探究活動の機会を提供し、理数教育推進を図る。(SIP拠点校プロジェクトチーム)</p>	<p><b>●教職員の協働体制の確立【A】</b></p> <p>(1) 企画調整会議の情報共有や拡大生活指導部会等での分掌間連携はおおむね達成できた。</p> <p>(2) 若手教員の資質・能力向上の意識は高いが、自ら思考し行動できるよう教員相互の更なるOJTが必要である。「C」→「A」の組織的な取組を改善したい。</p> <p>(3) キャリア教育検討委員会を軸に系列改編への取組は遂行できた。次年度中に、選択科目の再設定に向けて取り組む。大学一般受験への組織的な進学指導は、不十分であった。</p> <p>(4) グローバル教育推進委員会による、フランスへの海外派遣、マレーシア高校の受け入れ等、伸展した。1・2年次の英検受験、TGG語学研修は、英語力強化と体験的なキャリア形成に効果があった。</p> <p>(5) SIP拠点校PTの企画・運営により、理数分野への関心を高め、年3回実施したフィールドワークも参加者が増加傾向にあり、探究心をもった活動ができた。</p>
<p><b>【教科指導】</b></p> <p>(1) 教科会を活性化し、組織的な授業力向上と観点別評価の共通理解を図る。生徒の個別最適な教授法を追求し、確実な基礎学力の定着と進学指導の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒の授業評価に基づく教科指導の検証や改善を行い、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(3) 教員相互の授業観察、若手教員の研究授業への参加、スマート・スクール端末の利</p>	<p><b>●個別最適な学びや協働的な学びの推進【B】</b></p> <p>(1) 定期的な教科会は開催している。観点別評価の共通理解は図られているが、生徒への個別最適な教授法や進学指導の充実までには至っていない。</p> <p>(2) 授業評価を年1回しか実施できず、教科指導の検証までには至っていない。各教科担当の自主性による結果となった。</p> <p>(3) 教員相互授業観察、若手教員の研究授業・協議は概ね成果があった。生徒端末の</p>

<p>活用、探究的な活動の充実等、教員の授業力向上、若手教員育成を推進する。</p> <p>(4) 成績に課題のある生徒の補習及び大学受験指導に特化した講習等を、教科担当と年次担任が連携して組織的に実施する。</p> <p>(5) 学校図書館と教科等が連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動等での学校図書館の利活用を推進する。個別最適な学習環境（ラーニング・コモンズ等）を整備する。</p>	<p>利活用も単元によって使い分けるなど、工夫しながら、拡充している。</p> <p>(4) 学習に課題のある生徒の補修等、各教科で熱心に対応できた。大学受験指導は組織的な取組に課題がある。</p> <p>(5) 授業での図書館の利用が増し、探究的な学習環境の提供やラーニング・コモンズの整備により、貸し出し冊数も増加した。</p>
<p><b>【生活指導】</b></p> <p>(1) 「都立高校生活指導指針」に基づく指導により、挨拶の励行、身だしなみ、遅刻等を重点的に指導する。</p> <p>(2) 全教員が授業規律を徹底し、教室環境の整美、施設・設備の安全確認を適切に行い、学習環境の維持・向上に努める。</p> <p>(3) セーフティ教室（交通安全、SNS、薬物乱用防止、性被害等）を通して、問題行動等の未然防止に向けた指導を計画的に行う。</p> <p>(4) HR活動や学校行事を通して、人間関係の構築、思考力・判断力、コミュニケーション能力の育成を図り、振り返りの機会を設定し自己理解を深めさせる支援を行う。</p> <p>(5) 体罰及びいじめの根絶を目指し、服務事故防止に組織的に対応する。</p>	<p><b>● 組織的な生活指導【C】</b></p> <p>(1) 年間を通じて、朝の生徒玄関前での、身だしなみ指導等、生活指導部と年次担任団が協力して指導できた。</p> <p>(2) 各クラス担任・副担任の清掃指導により、教室環境は概ね良好だった。</p> <p>(3) 問題行動の未然防止、事後の再発防止の観点から、必要なセーフティ教室を適切に実施した。</p> <p>(4) 年次・クラス通信等による振り返りや、行事ごとに自己理解を図り、人間関係の構築や思考力、コミュニケーション能力の育成等、キャリア形成に効果があった。</p> <p>(5) 服務事故防止研修を2回以上行い、服務事故の未然防止や、いじめ防止対策推進法の理解等、組織的に取り組めた。</p>

<p><b>【進路指導・キャリア教育】</b></p> <p>(1) 上級学校への進学対策として、各種ガイダンス、補習・講習、面接・論文指導等について、各教科が連携し進路指導部を中心とした組織的な指導體制の構築、充実を図る。</p> <p>(2) 「産業社会と人間」、「マイ・プロジェクト」による計画的・系統的なキャリア教育を構築し、組織的な指導のもと、生徒の自己理解の深化、言語能力やプレゼンテーション能力等の向上を図る。</p> <p>(3) 全教員による個別面接やキャリア・カウンセラー面談を通して、進路実現を支援する相談体制を充実させるとともに、進路未決定者に対する指導を徹底する。</p> <p>(4) 生徒に有効な資格を各教科で検討し、組織的・計画的な資格取得、受験を推奨する。</p>	<p><b>● 進路実現への支援【B】</b></p> <p>(1) 進路指導部及び各年次による各種ガイダンスがダブルスタンダードになることがあり、進路指導部を中心とした年間計画、運営の整理が必要である。</p> <p>(2) キャリア教育部を新設し、「産社」「マイプロⅠ・Ⅱ」の組織的な指導體制が確立できた。探究活動の在り方を見直し、進路実現を踏まえた計画的なキャリア教育の継続を図る。</p> <p>(3) (2)の組織改革により、キャリア・カウンセラー面接の回数が伸び悩むところであった。進路指導部の各担当が進路未決定者への丁寧な支援をサポートした。</p> <p>(4) 英検準2級以上84名、P検3級以上39名について、英検は合格者が増大し、全員受験の効果があった。</p>
<p><b>【特別活動】</b></p> <p>(1) 学校行事（体育祭・若葉祭）について、目的やねらいの明確化と質的向上を図る。</p> <p>(2) 部活動の加入率や活動実績の向上、部活動ガイドラインの遵守に努めるとともに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した、適切な部活動を運営する。</p> <p>(3) 生徒会を中心に、ボランティア活動や地域貢献活動を推奨する。</p> <p>(4) 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の施策を活用し、生徒の芸術活動の充実を図り、協調性やコミュニケーション力、他者理解など豊かな心を育成する。</p>	<p><b>● 生徒の主体的活動の推進【B】</b></p> <p>(1) 担当者の引継ぎ等により、新たな企画や取組に挑戦できた。</p> <p>(2) 部活動加入率が73.9%と、昨年並みだった。スポーツ特別推薦で入学した生徒の効果を期待し、部活動の活性化に向けた取組を推進していく。</p> <p>(3) 生徒会・部活動が連携して、地域イベントに参加し、地域貢献に成果があった。</p> <p>(4) 1年次で施策を活用し、芸術鑑賞を実施し、豊かな感受性乃醸成や他者理解など、成果があった。</p>

<p><b>【健康・安全指導】</b></p> <p>(1) 「生涯の健康に関する理解促進事業実施校」の施策を活用し、産婦人科医を招聘した授業を実施する。生徒が、生涯を通じて自らの健康や環境を管理し、改善していくための資質・能力を育成する。(保健体育科)</p> <p>(2) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、保健体育の授業や体育的行事を通して、運動の重要性を理解させ、楽しみながら運動やスポーツに参画し、体力向上を目指す。</p> <p>(3) 教育相談委員会を中心に、スクール・カウンセラーや都立版エリアネットワーク(特別支援学校)と連携した教育相談機能の充実を図り、特別な支援が必要な生徒に対する組織的な対応を図る。</p> <p>(4) コンディショニング・レポートを活用し、生徒の体調や気持ちの変化を把握するとともに、適切に教育相談等につなげられるよう対応する。</p> <p>(5) 地域と連携した救命救急講習や合同防災訓練等を通じて、実践的な防災意識の涵養を図る。</p>	<p><b>● 心と体の健康と生命を尊重する態度の育成【B】</b></p> <p>(1) 産婦人科医を招聘し、1・2年次合同の講演会を実施した。生涯を通じて、生徒の健康や環境を自己管理し、知識を活用できる成果を得られた。</p> <p>(2) 体育祭や球技大会を通して、楽しみながら運動やスポーツに参画できた。体力テストの結果から、体力の維持・向上が課題である。</p> <p>(3) 都立版エリアネットワークと連携し、支援の必要な生徒の校内研修を実施した。教育相談委員会を年間21回開催し、生徒の個別課題について、組織的に対応できた。</p> <p>(4) コンテンツを活用した生徒の健康情報は、継続的な取組とはならなかったが、必要に応じて活用できるよう、対応していく。</p> <p>(5) 防災士養成講座に8人が受講し、資格取得を下。稲城市合同防災訓練に生徒が参加し、地域と連携した活動ができた。</p>
<p><b>【募集・広報活動】</b></p> <p>(1) 稲城市立中学校及び稲城市教育委員会との連携や出前授業、塾訪問等を積極的に実施し、中学生・保護者に対して、本校の魅力発信、総合学科の理解に努める。</p> <p>(2) 学校ホームページ、公式ツイッターの適宜更新、学校説明会等における情報発信の充実を図る。</p> <p>(3) 都の施策を活用した紹介動画を作成し、本校ホームページやYou Tube等で公開する。</p> <p>(4) 都民向け公開講座を実施し、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p><b>● 創意工夫した広報・募集対策【A】</b></p> <p>(1) 近隣中学校への出前授業や進路ガイダンス、学習塾訪問に出向き、総合学科のPRを組織的に実施できた。</p> <p>(2) 学校HP・Xの配信を年間約500回以上更新し、保護者向け情報配信や入試倍率に一定程度、効果が見られた。</p> <p>(3) 授業で生徒作成のPR動画を、学校説明会等で公開できた。</p> <p>(4) 「初心者向けの陶芸教室」を開催し、地域住民から高い評価を得た。</p>

<p><b>【学校経営】</b></p> <p>(1) 管理職は、マネジメントレビューを活用し、自己の職務行動やマネジメント力について、職場環境の改善やコミュニケーションを活性化させ、教職員が働きやすい職場風土を醸成する。</p> <p>(2) 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、計画的な仕事の進め方により在校等時間の縮減、計画的な年休取得を目指し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>(3) 長期休業期間中のテレワークの活用や、男性職員の育児休業が取得しやすい環境を整備し、多様な働き方の定着を図る。</p>	<p><b>●効率的・効果的な学校経営の推進【B】</b></p> <p>(1) 管理職のコミュニケーション不足や、報告・連絡等が不十分であった。職場のコミュニケーションを一層図り、風通しの良い環境改善を図る。</p> <p>(2) 在校等時間の縮減を目指し、産業医面接等を行い、月 80 時間超過者数は減少した。年間 15 日以上の子休取得者は、28 / 58 人であり、取得率は 48.3%となり昨年度より減少した。</p> <p>(3) 長期休業中のテレワークや育児休業取得への環境整備は進んでおり、多様な働き方の推進を図れた。</p>
<p><b>【経営企画室】</b></p> <p>(1) 「令和 6 年度東京都立若葉総合高等学校 予算編成指針」に基づき、西部学校経営支援センターとの連携を基本としながら、自律系経営予算、教育施策予算等、効率的な契約による予算執行を図る。</p> <p>(2) 教職員の Well-being の土台となる環境整備に向けた課題を、TEPRO と連携し早期発見、早期解決に向けた対応に努める。</p> <p>(3) 経営企画室と管理職・分掌主任が協働して、本校の課題解決を目指す予算編成・執行を実現する。令和 6 年度の予算執行状況を踏まえ、次年度予算編成指針を 10 月中旬に策定する。</p> <p>(4) 行政系職員の働き方に合わせて、少なくとも月に 2 日は定時退庁を目指し、残業時間の縮減とライフ・ワーク・バランスの推進を図る。</p>	<p><b>●学校運営への積極的な参画【A】</b></p> <p>(1) 経営企画室のチームワークにより、教育系職員と連携を密にし、自律系経営予算、教育施策等に係る予算を効率的に執行できた。</p> <p>(2) 施設老朽化による改修工事等、TEPRO と連携し早期に対応できた。</p> <p>(3) 補正予算の編成について、無駄のない計画的な執行により、課題解決を図った。補正予算の次年度対応や新年度予算編成について、推進予算との照らし合わせ、執行計画を策定した。</p> <p>(4) 多様な事務処理に日々追われ、2 学期以降、定時退庁・残業時間の縮減等には至らず、次年度の継続課題である。</p>

数値目標		数値目標	評価
学校運営	① 学校満足度 生徒【90%以上】、 保護者【90%以上】 ② 教育目標の実現 保護者【90%以上】	① 生徒【83.0%】、 保護者【91.0%】 ② 保護者【84.0%】	A
教科指導	① 教員の相互授業観察、若手教員研究授業の 参加【年3回以上】 ② 授業、補習・講習等の充実【80%以上】	① 相互授業観察、研究授業参加 【概ね年3回以上達成】 ② 生徒の授業満足度【92.0%】	B
生活指導	① 体罰・いじめの防止、生命に関わる重大事 故防止【0件】 ② 規範意識の醸成遅刻回数【年間延べ4500 回以下、3.5%未満】	① 体罰・いじめ、重大事故報告 【3件】 ② 遅刻回数 【年間延べ6009回、5.1%HR平均】	C
進路指導・ キャリア教育	① 進路決定率(進学浪人含む)【100%】 ② 情報提供や相談活動の満足度 生徒【90%以上】、保護者【85%以上】	① 進路決定率(進学浪人含む)【100%】 ② 生徒【92.0%】、保護者【81.0%】	B
特別活動	① 部活動への主体的な参加 部活動加入率【75%以上】 ② 体力・運動能力の向上 東京都統一体力テスト【都平均3種目以上】	① 部活動加入率 【73.9%以上】 ② 東京都統一体力テスト 【都平均以上0種目】	B
募集・ 広報活動	① 広報活動の充実 (1) 教員の参加【年2回以上】 (2) HP・SNSの活用【900回以上】 (3) 中学校訪問【30回】 (4) 塾訪問【150校】 (5) 中学生・保護者来校者数【延3000人以上】 ② 入試倍率の向上 推薦倍率【2.0倍以上】 一般入試倍率【1.3倍以上】	① (1)教員の参加【各年2回以上参加】 (2)更新回数 HP・X【520回】 (3)中学校訪問・出前授業・ 外部説明会【27回】 (4)塾訪問【250校】 (5)来校者数【延2597人】 ② 推薦倍率【1.90倍】 一般入試倍率【1.13倍】	A
学校経営	① 管理職マネジメントレビューでの評価【50% 以上】 ② 一人1台端末の利活用、観点別評価、総合 学科・キャリア教育の理解促進、教育相談等 における校内研修【年3回以上】 ③ 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進 【超勤45時間以上、35%以下】 年間年休取得【15日以上】	① 教員の肯定的評価【3割】 ② 校内研修の実施【3回以上実施】 ③ 在校等時間の縮減 【超勤45時間以上、36.9%】 年間年休取得【15日以上48.3%】	B
経営企画室	① 令和7年度予算編成指針の策定【10月中】 ② 令和6年度センター執行率【45%以上】 ③ 経営企画室の定時退庁日(月2回) 【年20日以上】	① 令和7年度 予算編成【10月決定】 ② 令和7年度 センター執行率 【47.2%】 ② 定時退庁日数【0日】	A